

ニュースレター

No.61

発行/NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
 事務局/〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1
 稲城市地域振興プラザ 1F
 TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971
 E-mail info@i-inagi-support.org
 http://www.i-inagi-support.org/

市民活動サポートセンターいなぎ 2019年度の年間事業計画

	月											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
I. 市民活動相互交流事業												
市民活動交流フェスタ 2019										○		
市民活動団体との協働事業	●											
金曜サロンスペシャル	●		●	○			○	○	○	○	◎	○
II. 市民活動に関する情報収集及び提供事業												
ニュースレターの発行			●				○					○
ホームページ・ブログ												
III. 市民活動支援及び相談事業												
NPO 講座												
市民活動支援講座												
市民活動支援基金		●										
講師派遣・相談事業												
IV. 市民活動の調査研究とこれに基づく政策提言事業												
課題の洗い出しと調査研究												
V. 市民活動団体や行政及び企業との協働事業												
手づくり市民まつりへの参加		●										
Iのまちいなぎ市民祭への参加										○		
行政との協働企画講座												○
VI. センターの設備及び機器の利用提供事業												
ミーティングコーナー												
印刷機等の利用												
図書の間覧及び貸出し等												



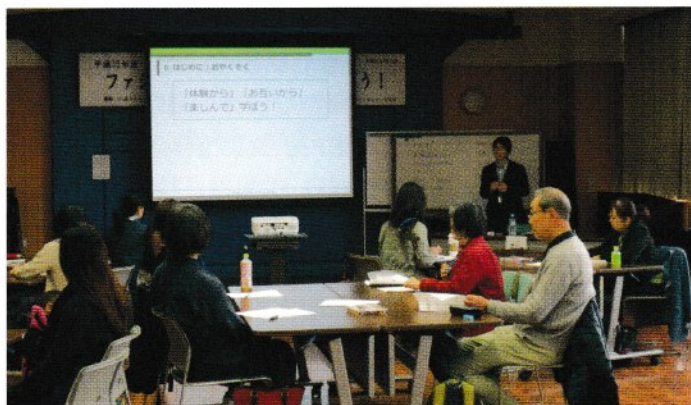
市民活動交流フェスタ



金曜サロンスペシャル



●は、すでに終わっている事業です。
 ◎は「新年の夢を語り合う会」で、利用登録団体懇談会を兼ねて開催します。



NPO 講座



市民活動支援講座



明るく楽しく支え合う平尾地区

稲城市内で最も高齢化が進んでいる平尾地区で、高齢者を中心とした支え合い、見守り合いの活動が活発に行われています。今回は、2年目を迎えた「平尾地区地域支え合いの会議」の取り組みを中心に、全市的に有名な「地域の支え合いの場所」の様子をご紹介します。



高齢化が進む中で…

高齢化が進むわが国で、2025年には団塊の世代が後期高齢者の仲間入りをし、介護を必要とする人が急増すると見込まれています。そこで、これからは地域ごとに高齢者への支援体制を整えたり助け合いの仕組みを作っていくことが、国の方針として示されています。

稲城市内でも地区ごとにそのための話し合いが行われており、平尾地区では一昨年に「平尾地区地域支え合いの会議」が発足し、下表の団体が参画して、「みんなが住み慣れた地域で、自分らしく笑顔で、安心して暮らせるまちづくり」にむけた取り組みが始まりました。

一方、地域の住民から「ゴミを出す際に分別をしない人

【平尾地区地域支え合いの会議のメンバー】

平尾自治会、平尾住宅自治会、平尾分譲住宅自治会、平尾宅地分譲住宅自治会、民生・児童委員、あゆみ会、むつみ会、ふれあいセンター平尾、NPO ふれあい広場ポーポーの木、支え合う会みのり、市民活動サポートセンターいなぎ、稲城市社会福祉協議会、稲城市高齢福祉課、稲城市地域包括支援センターひらお

がいる」という苦情が自治会に寄せられたことに対し、「上から目線で改善を求めるのではなく、何故その人が分別をできないのか、事情を把握して互いにケアしていこう」と行動したことをキッカケに、「地域の様々な団体やグループが互いに力を出し合って、連携して見守りをしていこう」（平尾自治会の白井亨会長）という気運が醸成されていきました。



支え合いに関心を持つ人は多い

そして、地域支え合いの会議で話し合いを進める中で、地域の現状や地域で活動する様々な団体の紹介、地域のことを自由に話せる集会の企画が持ち上がり、昨年2月に第1回の「平尾みんなのえがお」が開催されました。「地域の現状を多くの人に知ってもらい、意見を聞くことが大切だと考え、初めての集まりを企画しました」（小野三夫実行委員長）。

当日は地域包括支援センターひらおから「地域の現状とこれから」の講話のあと、「平尾地区のいろいろな活動」として平尾分譲住宅自治会・平尾小学校 PTA パパ会・カ



第1回「平尾みんなのえがお」の様子



活発なグループディスカッションが行われました

フェいしださんち・りんごの会（介護予防の自主グループ）の4団体が発表したほか、21の地域団体が活動をポスターで紹介、第2部では地域での支え合いをテーマにグループディスカッションをしました。

会場の平尾自治会館には100人を超える参加者が集まり、熱気にあふれました。地域の支え合いに関心を持つ人が多くいることが分かったとともに、「平尾地域で活動している団体のことをもっと知りたい」という参加者の声が多くあったことから、第2回の平尾みんなのえがおが同年6月に開催され、前回は上回る26団体が活動紹介のポスター展示などを行いました。



子どもにも輪を広げて

今年度、地域支え合いの会議のメンバーは、子どもたちへも見守りの輪を広げています。以前から会議メンバーの団体が自主的に登下校時の見守りをしていましたが、地域支え合いの会議として連携して、地域全体で子どもたちを見守ろうというものです。

取り組みを始めるにあたって、平尾小学校の全校集会にメンバーが参加して活動の趣旨を説明。取り組みに賛同する人は、「見守り協力員」のカードを身に着けたり自転車に同様のプレートをつけて、散歩や買い物などに出かけた



見守り協力員証（カード）



カードを着けた見守り協力員

り、登下校時の子どもたちに挨拶の声掛けをしています。子どもたちからも元気な挨拶が返ってきて、高齢者の皆さんも子どもたちから元気をもらっているそうです。



高齢化が進んでも 一歩でも前へ

平尾地区の4自治会（平尾自治会・平尾住宅自治会・平尾分譲住宅自治会・平尾宅地分譲住宅自治会）は、年間を通して共同のイベント等を開催しています。

自治会の役員は会議などで顔を合わせる機会がありますが、一般住民の方は同じ平尾地区でもなかなか言葉を交わす機会がないので、平尾地区の人的交流の場を作るために、6月と11月のフリーマーケット、秋の防災訓練、盆踊り、ある分野に秀でた地域住民が講師を務める「平尾市民塾」等を主催して、地域住民の交流促進に努めています。

役員の方々の皆さんも高齢化が進んで、年々イベントの運営などが厳しくなっていますが、上平尾地区の住宅地に30～40代の子育て世代が多く住むようになり、上平尾ひなた自治会も結成されたので、今後は既存の4自治会と一緒に活動して、若い世代の新しい住民の人たちが平尾の活力源になってくれることを期待しています。

「地域の問題に特効薬や即効薬はありません。各団体それぞれ問題を抱えているけれど、互いに持っているものを出し合って、徐々に解決に向けて一歩でも前へ進んでいこうと思います」（白井会長）。



多くの住民で賑わう平尾地区の盆踊り



喫茶ポーポーの木

1998年に「住み慣れた地域で、いつまでも助け合って、生き生きと暮らしたい」という願いで始まったNPOふれあい広場ポーポーの木が、平尾団地商店街に開いたコミュニティ喫茶で、今年で12年目になります。



地元産の野菜を中心にした栄養バランス満点の日替わりランチが人気を集めるほか、水墨画や絵手紙、水彩画、体操教室など生きがいくりのためのクラブ活動や、日曜日には「居場所づくり」として、おしゃべりや軽食を楽しむ「サンデーカフェ」、うたカフェ、ボイストレーニング、パークッション講座、リコーダーコンサート等の催しが行われます。

地域の人が集まって気ままにおしゃべりできる場として、平尾地区の高齢者を中心に市内の他地域からも、平均して1日に40人ほどのお客さんが訪れるそうです。



カフェいしださんち

NPO法人 支え合う会みのりのメンバーでもある石田惇子さんが「近所に、みんなが気軽に集まって話をできる場所がないので、それなら自分の家で始めちゃえ」と、2012年から開いている「まちの中の居場所」です。



地域で互いに持ちつ持たれつのか関係を作りたいとの思いで始めましたが、「みのり」の会報紙など色々なところで紹介されたり口コミで、石田さんを知らない人や平尾以外の人、月2回のオープン日を楽しみにやってきます。

会費制でお茶や手作りのお菓子を楽しみながら、トランプ・麻雀などのゲームやおしゃべりに興じたり、個人的なことを相談したりします。「知らない人と顔見知りになれる」「おしゃべりをして日頃のストレスを解消しています」「みんなと話をしに来るのが一番の楽しみ」と、部屋の中には笑いが絶えませんでした。(文責：種田匡延)

おしゃまします

いなぎ動物愛の会



世界の街角で暮らす猫の姿を撮ったテレビ番組や写真集が人気を集めるなど、かわいくてちょっとマイペースな猫のことを愛する人は多いですが、一方で飼育マナーなど猫をめぐる問題やトラブルが発生しているのも事実です。

その中で、飼い主のいない猫(以下、地域猫)に関する問題に取り組んでいるのが「いなぎ動物愛の会」です。元々農村地域だった稲城は、猫にとっても住みやすく、捨て猫や地域猫の数が増加し、農作物や植木への悪戯、糞尿の問題などが深刻になっていました。そこで、「人と飼い主のいない猫が共に生きるまち稲城」を目指して

1992年に発足し、地域猫への不妊手術の手伝い・えさやり・里親探しといった「地域猫活動」や、飼い主に対する飼育マナーの普及などを行っています。

地域猫を増やさないための不妊手術の費用は、かつては行政が手当していましたが現在は無くなっており、住民から地域猫の捕獲依頼や苦情を受け付けた同会のメンバーが自費を支出したり、寄附や基金の利用など自力で資金を調達して、対応しています。

地域猫へのえさやりも市内28か所ほどで毎日行っており、ゴミなどで近隣に迷惑をかけないように会員が支度から片付け・清掃までやっていますが、会員外のえさやりマナーの悪い人に声掛けをしてトラブルになることもあるのだとか。

苦情やトラブルの元になっている人を訪ねて改善を要請する際には市の職員が同行するなど行政の協力も得ています。しかし、前述の不妊手術費用や傷病猫の治療費など会員の負担が大きい中で、「会員には稲城市民でない人や高齢者もいて、えさやりにしても毎日行うのは経済的・体力的に大変なのに、みんな『人と飼い主のいない猫が共に生きるまち』を目指して頑張っているのだから、私は行政をはじめ一人でも多くの方に理解を求めていきたいと思います」と、同会代表の小木田恵子さんは力強く話してくれました。

○問い合わせ先：小木田恵子さん

TEL. 090-8110-3142